

研究報告掲載報文要旨

京都府宮津市栗田地先におけるクロアワビの産卵期

久門道彦, 山本圭吾, 道家章生

2009年9月から2010年12年までに宮津市栗田地先で採捕された雌クロアワビの生殖腺熟度指数(GI)および組織学的観察を行い, 本種の産卵期を推定した。組織学的観察から, 放卵期個体は, 2009年が10月上旬から12月中旬, 2010年が10月中旬から12月上旬にそれぞれ出現し, 両年とも11月に100%出現した。放卵終期個体は両年とも12月に出現した。これらの結果から, 本種の産卵は10月から12月にかけて行われ, 盛期は11月頃と考えられた。産卵盛期の水温は17-20℃であった。GI値の推移のみから産卵期を推定するのは困難であることが示唆された。

阿蘇海における垂下飼育によるハマグリ *Meretrix lusoria* の成長

久田哲二, 尾崎仁, 谷本尚史, 藤原正夢

阿蘇海においてハマグリを垂下飼育を行い, その成長を追跡した。また垂下したハマグリを肥満度を計測した。その結果, 成長期は4~11月まで, 成長停滞期は12月~翌3月であった。肥満度の計測結果から阿蘇海における飼育ハマグリ産卵期は7~9月であると考えられた。成長期には最高の日間生長率を示した後, 一時期成長が鈍化する時期があり, それは成熟が要因の一つとなっていると考えられた。

褐藻アカモク幼体の生長におよぼす塩分濃度の影響 (短報)

谷口千恵, 森田晃央, 久門道彦, 道家章生

有用海藻として注目されているアカモクは, 全国各地で増養殖が行われているが, 京都府の閉鎖性海域での養殖試験結果からアカモクは低塩分に対する耐性が低いことが示唆された。本研究では塩分30, 15, 7‰および3‰に調整した4つの水槽で, 養殖開始サイズである藻体長約5cmのアカモク幼体を2週間培養し, 葉数および藻体面積増加量の測定を行った。

生長に最も適した塩分は30‰であった。一方, 生長の阻害は15, 7‰および3‰で観察された。すなわち, アカモク幼体は幼胚と同じく, 低塩分環境下における耐性が低い海藻であることが明らかとなった。